

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【仲本小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	【課題】一定数いる正答率の低い児童への対応 【改善策】今年度行った「一人一授業」を継続して行い、指導技術の向上に努める。 ・タブレットをはじめとしたICTをより工夫する。
思考・判断・表現	【改善策】児童が学び方を自己決定できる機会を増やし、主体的に学習する場の研究、手立てを図る。 ・じ・しゃ・くの視点をもった授業構成を考えていく。
主体的に学習に取り組む態度	【改善策】児童がよりよい学習の仕方を考えることに自信をもてるような環境を作る。 ・ノートやタブレットなど、児童がよりよい教具を使えるような教材の研究を図る。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	一定数いる正答率の低い児童への対応	⇒ ・朝の基礎学習タイムを活用して、国語、算数の学習の習熟や定着を継続していく。 ・「ドリルパーク」や「学習探検ナビ」、「スタサプ」等を活用して、学習内容の習熟、定着、復習を図るとともに家庭での活用を充実させていく。
思考・判断・表現	一定数いる正答率の低い児童への対応を行い、一層の「思考・判断・表現」する力の育成	⇒ ・授業の中に自力解決の時間を位置付ける等、「個」で考える時間を確保することで、児童の思考を促したり、個別の支援をしたりして、「個別最適化された授業の一層の促進を図る。さらに考えを豊かに伝え合うことで、自分の考えを広げ、深めるようにする。 ・さいたま市が推進する「じ・しゃ・く」を授業づくりのポイントとし、個別最適な学び、協働的な学び、探究的な学びの具現化に努めていく。
主体的に学習に取り組む態度	校内研修の課題「主体的に考え豊かに伝え合うことで、考えを広げ深める児童の育成」の実践	⇒ ・「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の実践を行う。 ・一人一授業公開による研究を進める。 ・主体的に学習に取り組み、考えを広げ深めるための手立て及び児童が学びを調整していくための手立てを検証する。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査では、「知識・技能」の分野でR4の結果よりどの学年でも上回っていた。また、R5さいたま市学習状況調査「授業の内容はよくわかりますか」の問いに対して、ほとんどの学年、教科で95%以上が肯定的な回答をしている。学校課題研修では、ICTの利用方法についてマニュアルを作成するなどICTの活用を入れた。しかし、さいたま市学習状況調査の結果では、計算問題の正答率が他の問題に比べて、やや低い学年も見られることから、低い児童がまだいる結果となった。	B
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査では、R4の結果より上回っている学年が多かった。またR5さいたま市学習状況調査では「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の設問に対して98%以上の肯定的な回答があった。学校課題研修では、「豊かに伝え合う」ことについて研究を進めた結果、各学年で「話し合いの時に、授業の目当てに沿って話し合っている」と「自分の意見を友達や先生に伝えることができる」の項目について伸びのある調査結果を得た。	A
主体的に学習に取り組む態度	R5さいたま市学習状況調査では、「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の設問に対して5年生が98%、6年生が95%の肯定的な回答をしている。また「授業で学んだことをほかの学習で生かしていますか」の設問に対して、93%以上の肯定的な回答があったことから、主体的に学習に取り組んでいることが言える。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	国語では漢字を使って書き直す問題や敬語の使い方について適切なものを選択する問題で正答率が全国平均よりも低かった。敬語においては無解答率も高かった。 算数では概ねどの領域でも知識・技能における正答率は全国を上回っている。二次元の表から条件に合う数を読み取る問題では無解答率が高くなっている。三角形の角の大きさを求める問題について、正答率は低いが、無解答率はそれほど低くなく、あきらめずに解答しようとした姿勢がうかがえる。
思考・判断・表現	国語では最後の自分の考えをまとめ、書く問題において、無解答もあったが、正答率は全国平均を上回っており、児童が2極化していることを表している。特に図表やグラフなどを用いて自分の考えを伝えるように書き方を工夫する問題では無解答率は極めて低く、「読むこと」における正答率は極めて高い。 算数ではグラフを読み取って記述する問題の無解答率が高い。全国に比較すれば半分ほどの割合であるが、問題の中で無解答率が最も高かった。
主体的に学習に取り組む態度	全体的には無解答率は低かったが、記述の問題ほど無解答率が高くなる傾向が見られる。難易度の高い問題や自分の考えをまとめることに対して早い段階であきらめてしまっている児童がいるのではないかと。また、国語では漢字の正答率の低さから、短時間で効果的な学習を進める必要があると考えられる。一方で質問紙の結果から学校外の学習時間が多く、家庭での学習環境が整っている児童が多いことがわかる。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
※令和5年度のさいたま市学習状況調査の結果は参考扱いとなります。			
小3	国語は5.9ポイント、算数は5.2ポイント、市の正答率を上回った結果となった。また生活習慣等に関する調査結果では全体的に肯定的な回答が多く、高い数値を示している。一方で、算数「数と計算」、国語「我が国の言語文化に関する事項」では誤答もあり、習熟をはかる必要がある。	小4	国語は7ポイント、算数は6ポイント、市の正答率を上回った結果となった。また生活習慣等に関する調査結果でも全体的に肯定的な回答が多かった。しかし、国語ではほとんどの領域で市の平均正答率を3ポイント以上高いのに対して、「話すこと・聞くこと」では0ポイント以上3ポイント未満上回っているという結果となり、課題が残った。
小5	国語は7.2ポイント、算数は8.1ポイント、社会は8.2ポイント、理科は6.7ポイント、市の正答率を上回っている。しかし、算数や理科では正答率が低い児童も見られる。理科「エネルギー」を柱とする領域では誤答数も多く、学年末に復習する必要がある。	小6	算数は10ポイント、社会は7.5ポイント、理科は9.7ポイントの正答率を上回っていた。また国語は6ポイント以上、上回っていたが、「読むこと」の領域は他の領域と比較すると正答率はそれほど高くなかった。また、社会や算数は正答率の高い児童が多いのに対し、国語と理科では正答数の低い児童も他の教科に比べるといた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ ・朝の基礎学習タイムを活用して、国語、算数の学習の習熟や定着を継続していく。 ・「ドリルパーク」や「学習探検ナビ」、「スタサプ」等を活用して、学習内容の習熟、定着、復習を図るとともに家庭での活用を充実させていく。さらに漢字の学習では、語彙を増やしたり、送り仮名を使ったりするなどより実用的な学習を行う。 ・算数では算数的な活動を取り入れるなど、授業で子どもの思考に寄り添った学習を進め、子どもの「わかった」という体験を積み重ねる。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ ・一人一公開授業の取り組みを生かし、授業の中に自力解決の時間を位置付ける等、「個」で考える時間を確保し、児童の思考を活性化させたり、個別の支援をしたりして、児童一人ひとりの考えを広げ、深めるようにする。 ・さいたま市が推進する「じ・しゃ・く」を授業づくりのポイントとし、個別最適な学び、協働的な学び、探究的な学びの具現化に努めていく。 ・学校課題研修の中で、児童が自分の考えを豊かに伝え合うこと場の研究を進める。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ ・「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の実践を行う。 ・一人一授業公開による研究を進める。 ・主体的に学習に取り組み、考えを広げ深めるための手立て及び、難易度が高い課題に対して児童が最後まで取り組むための学びを調整する手立てを検証する。